



# 地域連携だより

## 病院指標と臨床指標について

東大阪病院 診療情報課の馬場昭夫と申します。

今回は病院指標と臨床指標についてご報告させていただきます。

当院は新病院に向けて、より質の高い医療を目指して取り組んでおります。

医療の質を高めていくためには自院の状況を的確に把握し、他院と比較しながら当院の強み弱みを理解して取り組み目標を定める必要があります。

他院と当院の状況を数値化し比較する指標として「病院指標」と「臨床指標」があります。

今回はこの2つの指標について当院のデータも含めてご報告したいと思います。

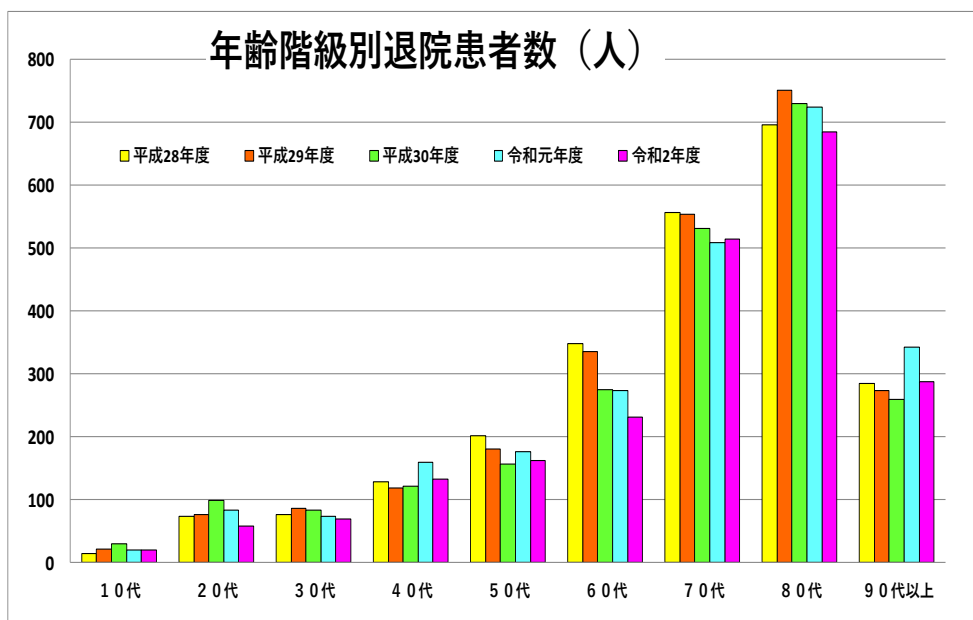


## 病院指標

病院指標とは、DPCデータを基に厚生労働省が定めた、全国統一の定義と形式に沿って作成する指標のことです。指標を自院のホームページ上で公開し、地域住民の皆様に見ていただき、自院の特徴や急性期病院としての現状を理解していただくことを目的としています。当院は、さらなる医療の質向上に向け、この事業に参加しています。

指標は合計7種類あり、当院のホームページでも公開中です。

その中の1つであります、「年齢階級別退院患者数」について、平成28年から令和2年度までの5年間分をご紹介します。



## 【特徴】

令和2年度は新型コロナウイルスの影響もあり全体的に入院数が減った分、退院数も減りました。

当院で最も多い年齢層は5年連続で80代で、全患者数の約30%を占めています。

また、70歳以上の割合は約65%を占め、地域社会の高齢化を反映しています。今後も高齢者の入院患者数は増加すると考えます。

裏面では、臨床指標（クリニカルインディケーター）についてご紹介致します →

## 臨床指標（クリニカルインディケーター）

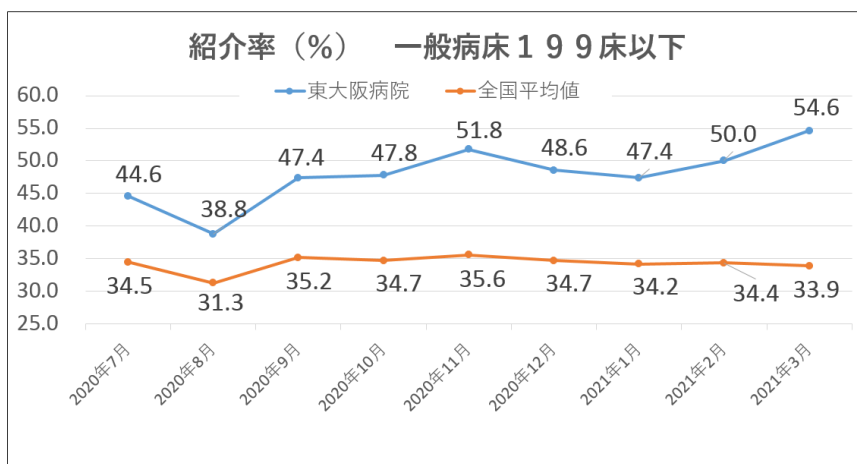
臨床指標（クリニカルインディケーター）とは、医療の質を定量的に評価する指標のことで、医療の過程や結果から課題や改善点を見つけ出し、医療の質の向上を目的とするものです。

当院では、自院の指標が現在どの立ち位置であるのか、他院と比較するとどれくらいのものなのかを知るために、「QIプロジェクト」を活用させていただいています。

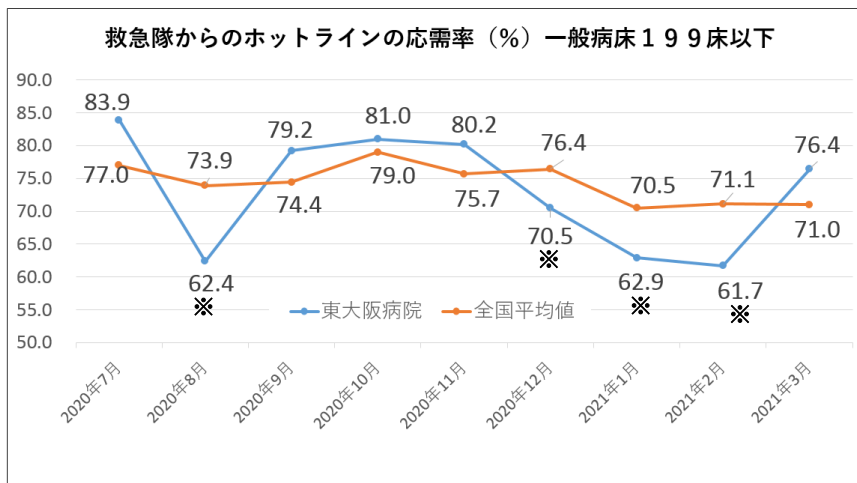
「QIプロジェクト」とは、日本病院会で実施されているプロジェクト事業で全国352施設が参加していて、約40項目の指標を扱っています。

その中の【紹介率】と【救急隊からのホットラインの応需率】をご紹介します。

### 【紹介率】



### 【救急隊からのホットラインの応需率】



※当院の数値が全国平均より低い月は、大阪府の緊急事態宣言による影響が要因であったと考えます。

以上の3つの指標より、当院が高齢者の救急医療に力を入れていることが結果として出ています。

【紹介率】につきましては先生方の信頼がなければ、このような高い数値は生まれません。また、

【救急隊からのホットラインの応需率】は救急医療に対する診療体制を維持・継続・強化していかなければ数値は上がりません。

このように当院では、医療情報を数値化することで、PDCAサイクルを病院の運営管理の手法として組み込んでいます。

今後も先生方に当院をより良く知っていただき、安心してご紹介いただけるよう努めてまいります。

加えて、当院の理念である“地域社会との共存・共栄”を実践するために、救急医療体制の更なる充実を図ってまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。